

<株式会社エフエム東京 第 4 4 1 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 29 年 9 月 5 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	秋 元 康 委員
ロバート キャンベル 委員	川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
吉 田 常務取締役
村 上 取締役営業局長
西 川 常勤監査役
森 田 執行役員編成制作局長 兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー
宮 野 編成制作局編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
大 橋 編成制作局制作部プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（1 名）

平 専務取締役

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 25 分）
『SCHOOL OF LOCK!』
2017 年 8 月 28 日(月)、29 日(火)、30 日(水) 22:00～23:55
TOKYO FM/JFN38 局ネット

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2017年6月度 聴取率調査結果について

2017年6月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました(調査対象期間：2017年6月12日～6月18日)。当社メインターゲット M1F1 層(男女 20～34 才)では、今回スコアが上昇し、昨年 10 月度以来、4 期ぶりの在京首位(同率)となりました。なお年代別では、F1 層、20 代男女区分で在京単独首位を獲得しました。

今回の特長として、F1 層では平日デイトタイム帯の 8 番組で同時間トップを獲得するなど、とりわけ女性リスナーからの高い支持を得ることができました。また、前回まで課題であった 30 代区分も今回スコアを伸ばし、若者層を中心に前後層においてリーチ(接触率)も回復する結果となりました。

今後も若者層を中心に幅広いリスナーに共感される話題、選曲、そして継続聴取、聴取頻度のアップを図った企画演出を講じ、さらなる聴取率の向上を目指してまいります。

■石川佳純が『Skyrocket Company』に生出演

働く若者を応援する TOKYO FM の夕方のワイド番組『Skyrocket Company』(月～木 17:00～19:00 放送)では、8月30日(水)放送で日本女子卓球のエース・石川佳純選手(24 歳・全農)をゲストに迎えました。世界を舞台に活躍する石川選手に、プレッシャーといかに向き合い、どのように打ち勝っているかなどを伺いました。同年代のリスナーから寄せられた仕事の悩みに、石川選手が自身の経験を元に「プレッシャーに打ち勝つ方法は練習しかない。自分はこれだけやったんだから負けてもしょうがない、と自分に納得できるところまで練習することで、プレッシャーをプラスに変換している」と、アドバイスを贈りました。



▲石川佳純選手



▲パーソナリティーのマンボウやしろ(右)、浜崎美保(左)

■『未確認フェスティバル 2017』開催



10代向け番組『SCHOOL OF LOCK!』（月～金 22時～23時55）では、10代アーティスト限定のフェス『未確認フェスティバル 2017』を、8月27日（日）新木場 STUDIO COASTにて開催いたしました。『未確認フェスティバル』とは、音楽に夢を馳せる10代のアマチュアアーティストたちが、バンド、シンガーソングライター、ラッパー等、形式は一切問わず、その“未完の才能”を武器に、「夏フェス」の出場をかけ、しのぎ削る所謂“音楽の甲子園”です。このフェスティバルから既に何組もの人気アーティストが輩出されています。

今年の会場となった新木場 STUDIO

COAST には、のべ 4,500 人のリスナーが来場。応募総数 3,199 組の中から、デモ審査・ネット審査・ライブ審査を勝ち上がった 8 組の 10 代アーティストがファイナルステージに挑みました。

審査の結果、グランプリに輝いたのは、曲を創り初めて 1 年余り、人生で初めて人前で歌ったという 17 歳の詩人の少年、シンガーソングライターの「リツキ」が受賞いたしました。

オープニングでは、未確認フェスの応援ガールとして、『SCHOOL OF LOCK!』でレギュラーコーナーも務める平手友梨奈（櫻坂 46）が開会宣言を行い、さらに、出演バンドや来場者に応援メッセージを贈りました。

ライブゲストには、若者に圧倒的な支持を集めるバンド Mrs. GREEN APPLE が登場。ライブ終了後には、10 月から新たに『SCHOOL OF LOCK!』のレギュラーコーナー『ミセス LOCKS!』のパーソナリティーを務めることが発表されました。



▲優勝したリツキ



◀ ▼応援ガール 平手友梨奈(樺坂 46)



▲会場の様子



▲とーやま教頭(右)、あしざわ教頭(左)

■TOKYO FM 主催『Rock Corps』開催

「4 時間、誰かのために体を動かし、その対価としてライブを楽しむ (=Give, Get Given!)」を合言葉に、ボランティアをライブの参加条件として世界的なムーブメントになっている『Rock Corps』を TOKYO FM 主催事業として、9 月 2 日(土)幕張メッセにて開催いたしました。

『Rock Corps』には、これまで世界 10 カ国、約 17 万人以上が参加。ライブには、レディー・ガガ、リアーナ、マルーン 5、NE-YO といった世界的人気アーティストが出演しています。今年度は Fifth Harmony、miwa、SPYAIR、androp が出演。さらにイベント公式アンバサダーをつとめる、高橋みなみもライブパフォーマンスを披露し、会場の若者たちを盛り上げました。



◀高橋みなみ(ステージ中央)

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○聴取率の説明にあった女性に強いデイトムの番組とは。

■午前中から数字が伸びて、Blue Ocean、ディア・フレンズ、LOVE CONNECTION、高橋みなみの「これから、何する?」、シンクロのシティ、Skyrocket Company、金曜日のよんばち、など。

○夜の番組の聴取率はどうか。

■まだ、課題がある。夜帯自体が、ラジオの数字が下がる時間帯。就業時間の終了に合わせて数字が下がるので、裏を返せば働いている時間に聴いてもらっているということではあるが、その後も聴いてもらえるように工夫はしたい。

○『未確認フェスティバル』について、このフェスティバルでグランプリを獲ると、デビューできるなど具体的に何かメリットはあるのか。

■『未確認フェスティバル』は、TOKYO FM、タワーレコード、レコチョクという、放送・店舗・デジタル音楽プラットフォームがチームを組んで開催している。優勝したからといってそのままメジャーデビューするようなことはない。優勝賞金が 100 万円。賞金を目的として出場するバンドもいる。動機はなんだったいい。ただ、このフェスティバルが目的としているのは、10 代のその時の想いを音楽を通してぶつけてくれること。青春群像に近い。ファイナリストまで残ったバンドが、このイベントを最後に解散することもある。レコード会社の発掘担当が『未確認フェスティバル』のライブを見に来て、出場バンドに連絡を取りたいと相談してくることもある。デビューのキッカケになったことは何度もある。解散することを決めたいバンドが『未確認フェスティバル』のライブをキッカケにレコード会社の目に止まってデビューが決まり、今も活躍し続けている。

○開催何年目を迎えたのか。

■『未確認フェスティバル』という名前になってからは 3 年目。10 代のバンドコンテストとしては、前身の『閃光ライオット』を 7 年間開催した。

○『未確認フェスティバル』という名前はいいと思う。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『SCHOOL OF LOCK!』

【放送日時】 2017年8月28日(月)29日(火)30日(水) 22:00～23:55
TOKYO FM/JFN38 局ネット

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、“未来の鍵を握る”ラジオの中の学校として、全国の中高生に向け平日 月曜～金曜に放送している 10 代向けの番組『SCHOOL OF LOCK!』の 8 月 28 日(月)、29 日(火)、30 日(水)の放送のダイジェストです。

8 月 27 日(日)に新木場 STUDIO COAST で開催された 10 代限定の音楽フェス『未確認フェスティバル 2017』のファイナルステージが、ここ数年の中でも一番の盛り上がりでした。音楽の甲子園であるこのイベントに、地方在住のためや、予定などで来られなかった生徒(=リスナー)へ、向け感動を共有するために、3 日間にわたりイベントの様子を、ライブ音源や来場者の声とともに特集した回のダイジェストです。(資料別紙)

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○グランプリに輝いた「リツキ」の歌が本当に素晴らしくて、番組審議ということのを忘れて感動してしまった。

○10代の時の音楽体験はとても大きい。オフィシャルサイトを拝見したところ、タワーレコードからのCD発売もできると記載があった。本当に意義のあるイベントだと思った。

○グランプリを決める審査員はどのような方か。

■音楽プロデューサーの葛谷好位置氏が審査委員長をつとめ、ロックバンド・プロミュージシャンが3名。そして、各レコード会社、『SCHOOL OF LOCK!』からもスタッフが参加し、総勢20名程度で審査をしている。

○今はSNSなどもあり、そういう場を通じて大きく成長していくバンドも多い。出場したバンドの音楽がどんどん広がっていけばいいと思う。どのような音楽なのだろうと思って聴いていたが、優勝したリツキについては特にひき込まれ、イベントの方向性に影響するような、ひとりの存在感を強く感じた。驚きとともに、とても楽しめた番組だった。

○ライブイベントを収録して、それをさらにダイジェスト化しているので、臨場感や抑揚を感じにくく、フラットに聞こえてしまった。良かったのは、Some Life、Absolute area、リツキがそれぞれ、自身の演奏の前と後で、自分たちの言葉で想いを語っているのが番組に入っていたこと。「ライブの自分たちが一番カッコいい」という自信満々なMCもあれば、「ここにいられるだけで感動している」など、それぞれ個性が出ていたと思う。

○番組パーソナリティー（校長・教頭）のライブ音源を受けた後のコメントが「かっこいい」「よかった」等、とてもありきたりで、若い人たちの本気のアツい気持ちと、スタジオでそれを受けている2人とが離れてしまっていたようにも感じる。

○ファイナルステージまでの審査のプロセスはどのようなものか。番組の中でそのプロセスも取り上げているのか。

■今回の番組の中では、途中のプロセスは扱っていない。

○プロセスがもう少しドキュメンタリー的に伝わってくると良かったと思う。ここまで来られなかった人の声があってもいいかなと思った。

○若者の叫びを感じた。若者の発散の場所なのかと思った。

○歌にもう少し分かりやすいメッセージ性を感じられると良かったと思う。

○音楽自体は私の琴線に触れることがなかったが、リツキの歌詞が、先があるのに自分で閉塞感を作ってしまった今の若者にぴたりとはまったんだろうなと思う。歌声から伝わってくるものも同様に若者に響いていたと思う。パーソナリティーである校長・教頭のコメントも人生訓めいてクサイけれど、それが逆に響く年代なのだろうと思う。

○リツキの「偏見」という歌詞と歌い方が沁みる年代。高校生たちの気持ちが昔とあまり変わってないんじゃないかと感じた。『SHOOL OF LOCK!』はそういう部分をくすぐる番組だと思う。

○イベント開催直後に、「ものすごいイベントだった」という感想を聞いていたが、実際にその様子を「録音」して伝えることは難しいと思う。イベントやライブを臨場感をもったままラジオで放送するのは容易ではない。今回の 25 分の視聴番組を聴いて、スタジオからのコメントは必要ないのでは、と思った。ライブの熱狂との差異があり、冷めてしまう。どんなに音が悪くても、現場で録音したものだけを放送し続けた方が良いのではないか。スタジオの冷静な雰囲気「グランプリはリツキだったけれども」と聞いてしまった後に、ライブ音源で、「グランプリは…リツキー！」と聞いてもリスナーは盛り上がれないのではないか。校長・教頭の感想を入れずに、ライブ音源だけ放送し続けた方が臨場感が伝わったと思う。全部放送した上で、グランプリ受賞後の裏話などを最後に聞いた方が伝わったと思う。

○今の 10 代のアーティストはどうだろうなと思って聴いていたら、聴き応えがあった。ロックとか一回りした子たちが、好きなことをやっているなと思った。「～ぼいな」というのは感じなかった。

○応募数が 3000 を超えていることもすごいと思う。ライブ審査へはどのくらい進むのか。

■東京・名古屋・大阪、計 4 日間で開催したが 3,199 組の内、33 組がライブステージに進んだ。そこから 8 組に絞って今回の決勝ステージとなった。

○この時点で完成形でなく、何か光れば良いというコンセプトはいいなと思った。良いイベントだと思った。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送番組「JOGLIS」

9月30日（土）7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、10月2日（火）に開催することを決めた。